

養鶏農協だより

—岡山県養鶏農業協同組合—

飼料の大暴騰と組合の対策

1月11日より長期にわたった米国港湾ストライキは、わが国の飼料事情に悪影響をもたらし小麦、大豆、玉蜀黍、マイロ等輸入飼料の大暴騰を招きました。このストがなくても、昨年末の玉蜀黍高騰と船運賃高のため、ほとんどのメーカーが2月初めより配合飼料を値上げしたことは周知の通りです。しかしストの長期化で、原料不足は必至との予想から、配合原料価格は値上がりと共に、2種混合の売り止めや数量制限まで行なわれるようになっていきます。

これら飼料事情の悪化に対し、組合では次の通り計画を樹て、それぞれ順調に実方されています。

(1) 原料対策

玉蜀黍

(1)、1、2、3、4月積みはいずれもタイ国産の契約をしていますが、順調に入荷されています

(2)、4月積みは米国産を一部契約していますが、これは、タイ国産の出荷状況が不安定の場合に備えるためですから、入荷が遅れても原料切れになることはありません。

(3)、中共産についても、貿易商社が中共と成約次第契約ができる手あてを行ないました。

大豆粕、マイロ

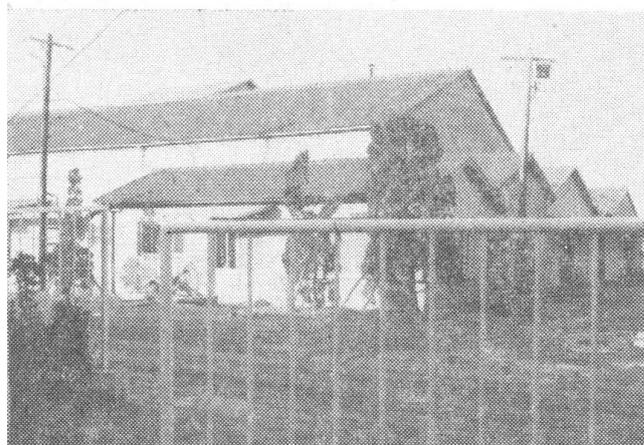
入荷が遅れ気味ですが、まずまず原料切れのないよう各月入荷の契約を終了してあります。万一の場合は、全体の品質を落とさない配合設計の変更をします。

その他

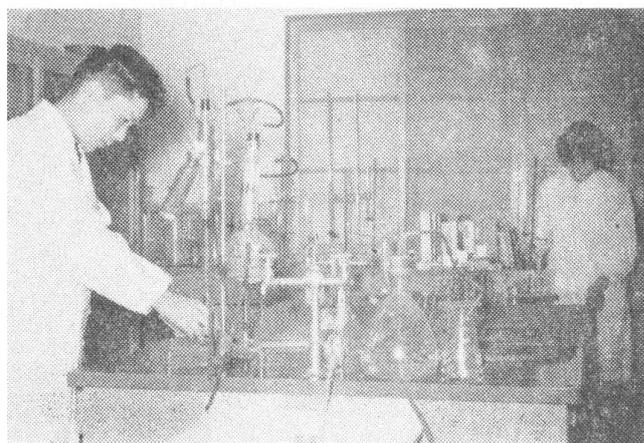
魚粉、麩その他の諸原料はいずれも契約済で、配合原料に心配はありません。

(2) 価格対策

組合では、組織の力と早期計画及び承認工場（保税上屋）の特性を活かし、一昨年11月以来、諸原料の騰貴にもかかわらず組合配合飼料の値上げをすることなく、最善と思われる飼料を供給し続けたこと



① 承認工場と保税上屋



② 化学室—飼料分析—

を誇りに思っています。

また現状では、近い将来値上げをする必要はないと予想されます。これは、1月22日の役員会でも承認されています。なお一層工場の能率向上、流通過程の合理化による経費節減等を図り、生産コストの低減を実施したいと存じますので組合員諸賢にも格段の御協力をお願い致します。

(3) 飼料代金回収期間励行について

飼料の生産コスト低減を阻害する最大なものは、売掛金増大に伴う組合が負担する金利であります。

飼料代金の回収はサイト1カ月間とし、その金利は必要経費として計上されていますが、代金の一部でもその期間を超えることがあれば組合が負担する金利がそれだけ多くなり、飼料価格に悪影響をもたらします。反対に、平均回収期間が1カ月より短くなれば金利負担が軽くなり、半期決算で組合員個々

岡山畜産便り 1965.02

の実情に応じてリベートされ、組合員の養鶏経営に
それだけ利益をもたらすわけです。飼料代金回収期
間の短縮は、直接組合員の経営向上に役立ちますの
で、特に御理解の上御協力下さい。